

今日の説教のポイント <使徒言行録10章1~48節>

- ①「しかし、ペトロは言った。『主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は何一つ食べたことはありません。』」(14)

神学校に入ってこの箇所をじっくり読み直した時の驚きを今でも忘れません。ペトロは、主イエスを裏切った後、自分の罪を深く悔いる中で復活の主と出会い、自分の罪の赦されたことを知りました。そして、主の昇天後は十二弟子の長として、信仰の鏡のような人になったと思っていました。しかし、ここを読むと、主の昇天後も、そのペトロが神様の御旨を全く理解していない時があったのだ、ということを知らされたのです。しかも、聖書の福音の中心とも言える内容、「神様は全ての人を救われる」という点についてです。ここで「清くない物」とは異邦人、すなわち神の民ユダヤ人以外の者を指しているからです。自分の罪が赦されたことを心から喜んで伝道に取り組み出したあのペトロが、福音はユダヤ人にだけ向けられたものと思っていたのです！ すなわち、私たちのことは考えていなかったということになるのです！

- ②「すると、また声が聞こえてきた。『神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない。』」(15)

ペトロの言い様、「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は何一つ食べたことはありません」は、何か、ファリサイ人の様です。自分が正しくありたい、そのことが中心に置かれているように感じられます。しかし、神様はこのペトロの理解を徹底的に否定されたのです。ここで大事な点は、神様の言われることには絶対的に従わねばならない、などということではありません。神様が異邦人もユダヤ人と同じように救いたいと強く思われている、ということです。

- ③「そこで、ペトロは口を開きこう言った。『神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。』」(35)

前の口語訳聖書では、「～下さることが、本当に分かって来ました」と訳されていました。「よく分かりました」では、何か、「自分は分かった」という感じですが、「本当に分かって来ました」ですと、「今まで分かっていたし、今も、完全に分かったわけではない」という謙虚な感じが伝わって来ます。

私は、ペトロにもこのようなことがあったのだということを知ってホッとしました。ペトロにしてこうならば、私たちが神様のこと、信仰のことなど、分からないことがあっても当然だと思ったからです。二つのことを思いたいと思います。一つは、神様が今の私たちにも及ぶ全ての者たちを救おうと考えて下さっているお方であるということ。もう一つは、私たちも、「私は知っている」と思うのではなく、謙虚な姿でこの大きな神様の恵みを伝えて行きたいということです。